

2014 年 2 月中旬の関東甲信地方を中心とした大雪時の積雪深分布（序報）

○伊豫部勉・松元高峰・河島克久・和泉薫（新潟大学災害・復興科学研究所）

1. はじめに 2014 年 2 月 14～16 日にかけて、本州の南岸を発達しながら移動した温帯低気圧により、関東甲信地方を中心に記録的な大雪がもたらされた。雪に慣れていないこの地域では、交通麻痺や物流の停滞、雪崩、停電などの様々な雪氷災害が多発し大混乱が生じた。太平洋側地域では積雪深の観測点が少なく、今回の大雪は山間部を含め広域の積雪状況が十分把握できないことを露呈した。著者らはこの大雪時の詳細な積雪深分布を明らかにするため、ウェブ上で公開される多機関の積雪深データに加えて、地元住民への聞き取り調査などを行っている。本発表では、得られた積雪深データにもとづいて明らかになってきた 2014 年 2 月 15 日の全国の積雪深分布について報告する。

2. 積雪深データの収集状況 国、道府県、市町村、研究機関、大学など複数の機関で計測され、ウェブ上で公開された全国の積雪深データの収集作業を 2014 年 2 月 15 日に行った。さらに、山梨県、静岡県、東京都、神奈川県、埼玉県、福島県、栃木県において地元住民への聞き取り調査のほか、大雪に関連する新聞記事（全国紙・地方紙）を検索し、2 月 15 日における積雪深情報の収集に努めた。その結果、2014 年 4 月末時点で、2,249 地点の積雪深データが得られた。

3. 2014 年 2 月 15 日の積雪深分布図 図 1 に 2,249 地点の積雪深データに基づく 2014 年 2 月 15 日の積雪深分布図を示す。本州は東日本全域～近畿にかけた広い範囲で積雪に覆われており、この割合を解析したところ、本州の約 8 割が積雪域であることが明らかになった。また、山梨県を中心に 100cm 以上を示すエリアが袋状に分布している点が特徴的であり、このエリアは表層雪崩が多発したエリアと一致する（和泉ほか、2014）。今後は積雪深データのない空白地帯を中心に住民への聞き取り調査を続けるとともに、役場や消防署が計測する積雪深データの収集を行い、広域にわたる詳細な積雪深分布を明らかにする予定である。

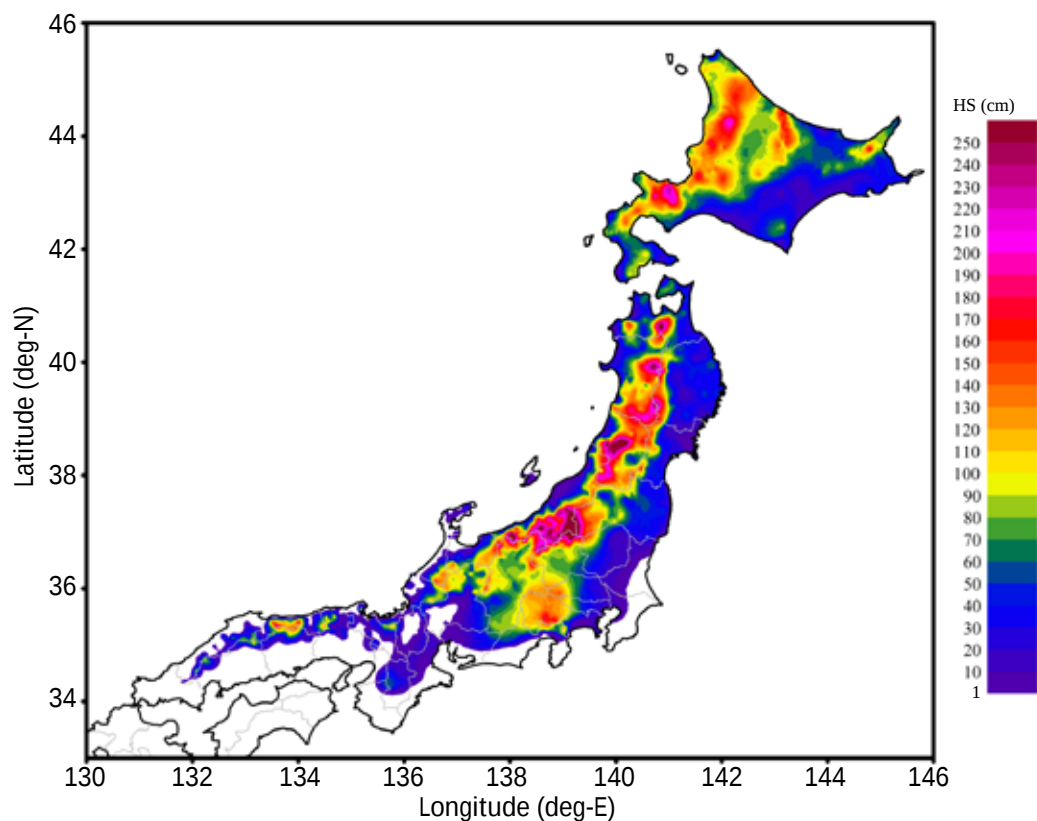


図 1 2014 年 2 月 15 日の積雪深分布図